

福山市人口将来展望分析(案)

1	福山市人口将来展望とは	1
	(1) 人口将来展望分析	
2	人口の現状分析.....	2
	(1) 全国と福山市の人口の推移・長期的な見通しと人口構造	
	(2) 人口の推移	
	(3) 人口動態の推移	
3	産業・雇用の現状分析.....	17
	(1) 産業別就業者数	
	(2) 雇用情勢	
	(3) 女性の就業率	
4	人口に関する課題と人口減少対策の方向性.....	20
	(1) 人口に関する現状と課題	
	(2) 人口減少対策の方向性	
5	人口将来展望.....	22

1 福山市人口将来展望とは

(1) 人口将来展望分析

【位置付け】

- 福山市人口将来展望分析は、福山市人口ビジョン(2015年10月)などを基に、直近の本市における人口の現状を分析するとともに、人口の将来展望を示すものである。
- また、本分析は、「福山みらい創造ビジョン」に掲げる、「市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市」をめざし、効果的な施策を企画立案する上で基礎となるものである。
- なお、本分析の作成においては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」などを勘案する中で、分析・考察を行うものとする。

【対象期間】

- 本分析の対象期間は、国の長期ビジョンや広島県の人口ビジョンを基に2060年とする。

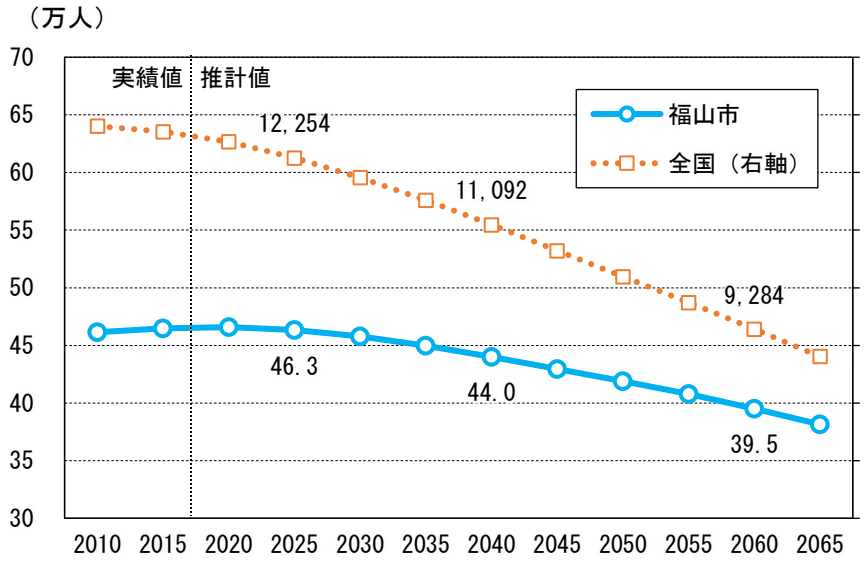
2 人口の現状分析

(1) 全国と福山市の人口の推移・長期的な見通しと人口構造

【将来人口推移と年齢別構成比の比較】

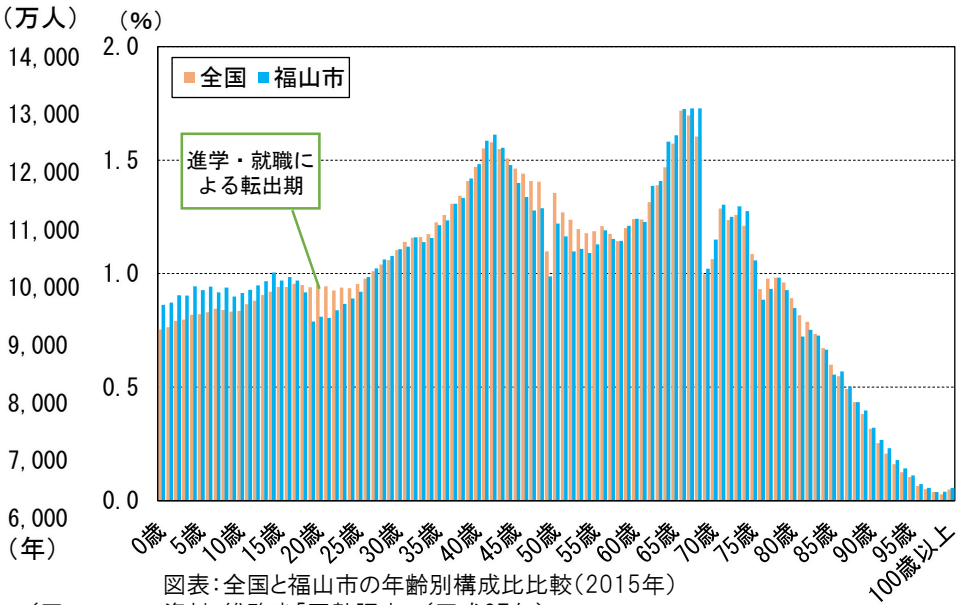
- 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))によると、2060年の総人口は約9,284万人まで減少すると予測されている。
- 同「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」によると、本市の将来人口は2060年には40万人を割り込み、39.5万人になると予測されている。なお、人口の減少率は、全国よりも低い。
- 全国と福山市の年齢別構成比を比較すると、本市の年少人口(0~14歳)は出生率の高さなどから全国の構成比を大きく上回っている。しかし、大学進学、就職などで転出傾向が強まる18歳から22歳にかけて全国の構成比を下回る。その後、20歳代後半にかけて構成比は全国並みに回復する。また、45歳から55歳にかけても全国の構成比を下回るものの、それ以降の年齢層では概ね全国水準並みとなっている。

【将来人口推移比較】



図表: 全国と福山市の将来人口の推移
資料: 総務省「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」 「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

【年齢別構成比比較】

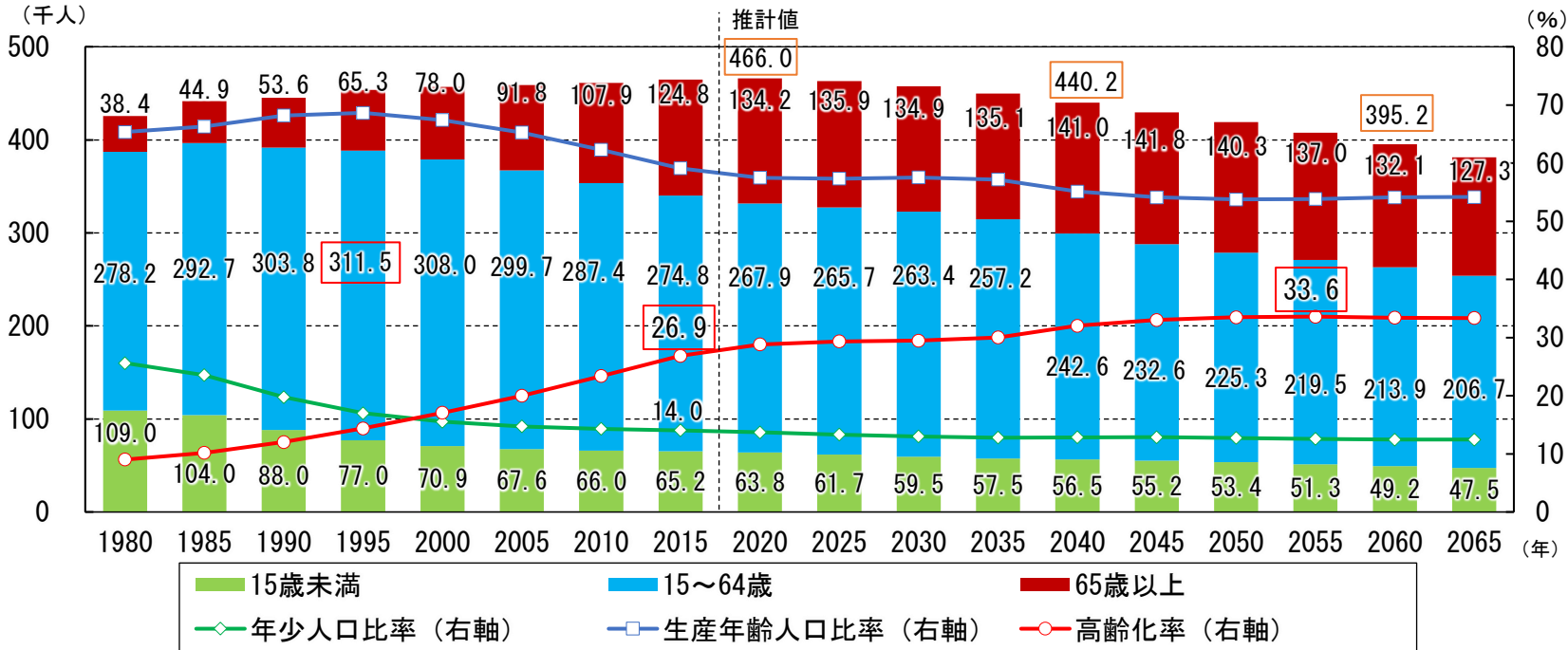


図表: 全国と福山市の年齢別構成比比較(2015年)
資料: 総務省「国勢調査」(平成27年)

(2) 人口の推移

【人口推移】

- 福山市の人口は、2015年の国勢調査では464,811人である。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、総人口は、2020年をピークに減少に転じ、2040年には、44.0万人となり、2060年には39.5万人と、40万人を下回ると予測されている。
- 人口の年齢構成をみると、15歳未満の年少人口は一貫して減少傾向にあり、15～64歳の生産年齢人口も1995年の31万人をピークに減少傾向にある。一方で、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、2015年には、高齢化率も26.9%にまで上昇している。
- 同推計によると、年少人口、生産年齢人口は引き続き減少するとともに、65歳以上の高齢者人口は、2045年にピークを迎え、その後は減少に転じると予測されている。一方で、高齢化率は2055年には33.6%まで上昇し、高い水準のまま推移することが予測されている。

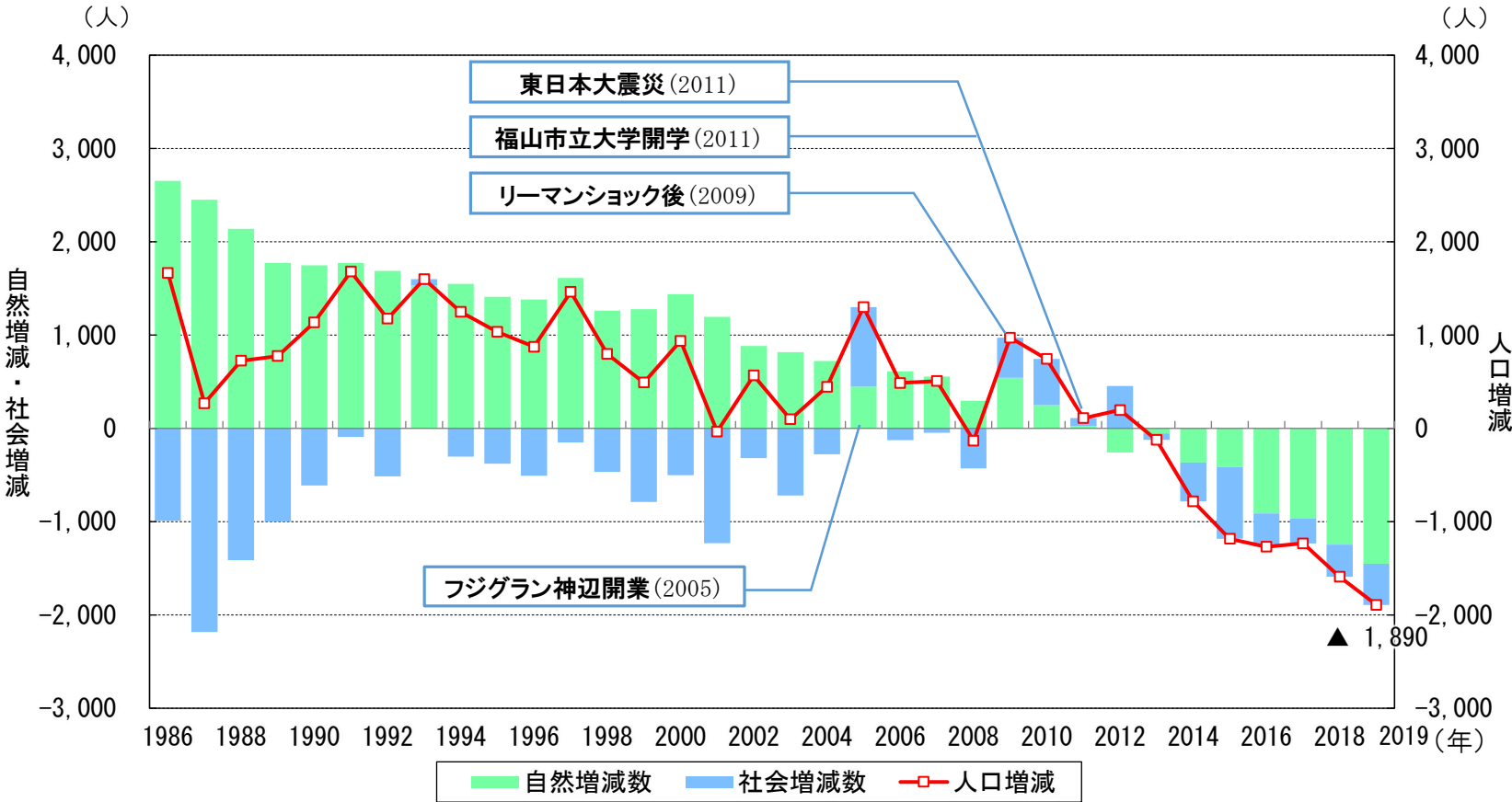


図表：福山市の年齢三区分別人口の推移
 資料：総務省「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

(3) 人口動態の推移

【人口動態推移(日本人)】

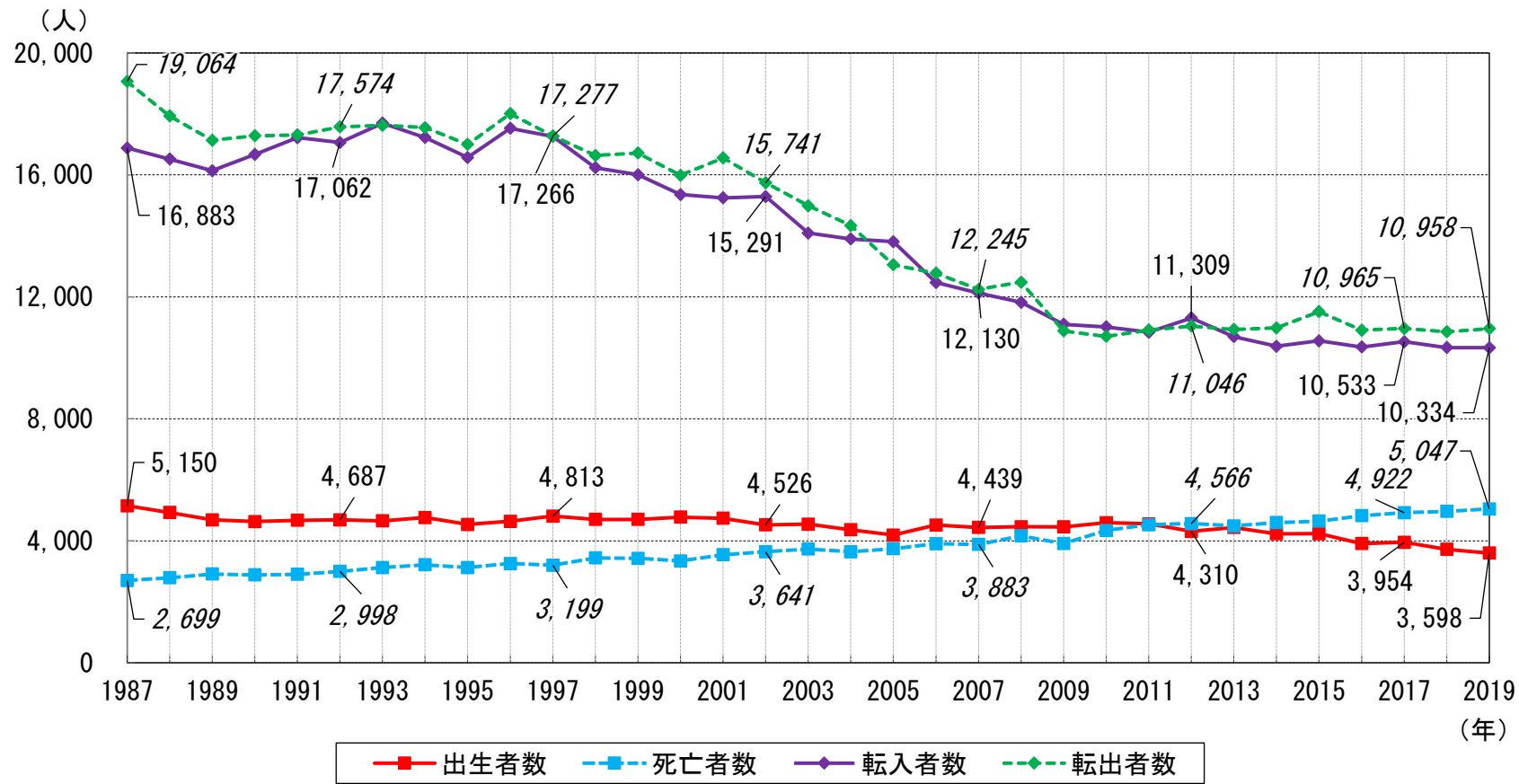
- 福山市では、1980年代前半までは毎年1,500人以上、1980年代後半から1990年代後半にかけては毎年1,000人前後の人口増加が続いていたが、2000年代は、年によってばらつきがあるものの、概ね500人未満の人口増加となっている。
- 2013年以降は、人口減少が継続しており、2019年には1,890人の大幅な減少となっている。



図表: 福山市の人口動態(日本人)の推移
 資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」
 ※ 自然増減数, 社会増減数には出生, 死亡, 転入, 転出以外の要因で加除が行われた場合も含むため, 次ページの出生者数と死亡者数の差, 転入者数, 転出者数の差で求められる値とは異なる。

【人口動態の内訳(日本人)】

- 自然動態をみると、出生者数が減少を続ける一方で、死亡者数は増加傾向にある。2011年までは死亡者数を生産者数が上回っていたが、2012年以降は自然減に転じている。
- 社会動態をみると、転入者数、転出者数ともに減少する中で、2004年までは概ね社会増の状況であったが、2005年から2012年にかけては社会増となっている年次もみられた。しかし、2013年以降は転出者数が転入者数を上回る転出超過の状況が続いている。

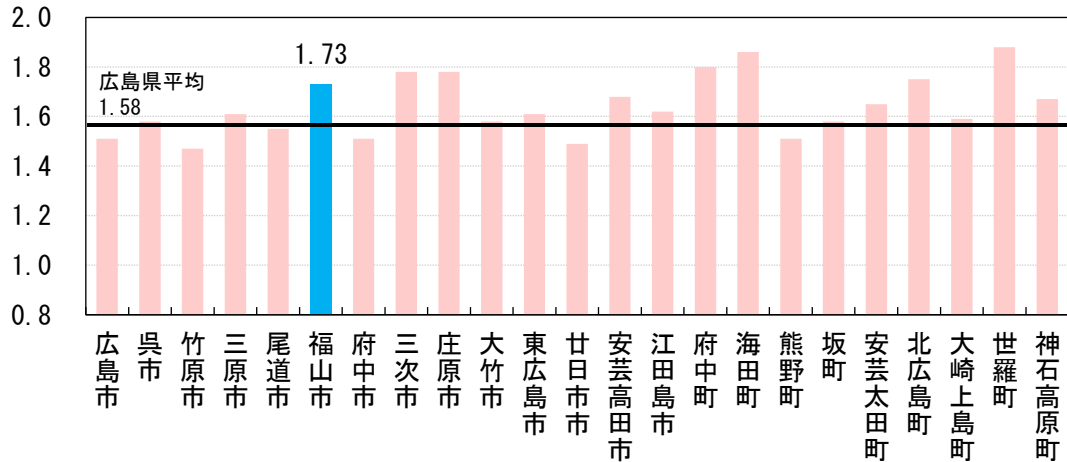


図表：出生者数、死亡者数、転入者数、転出者数(日本人)の推移
 資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

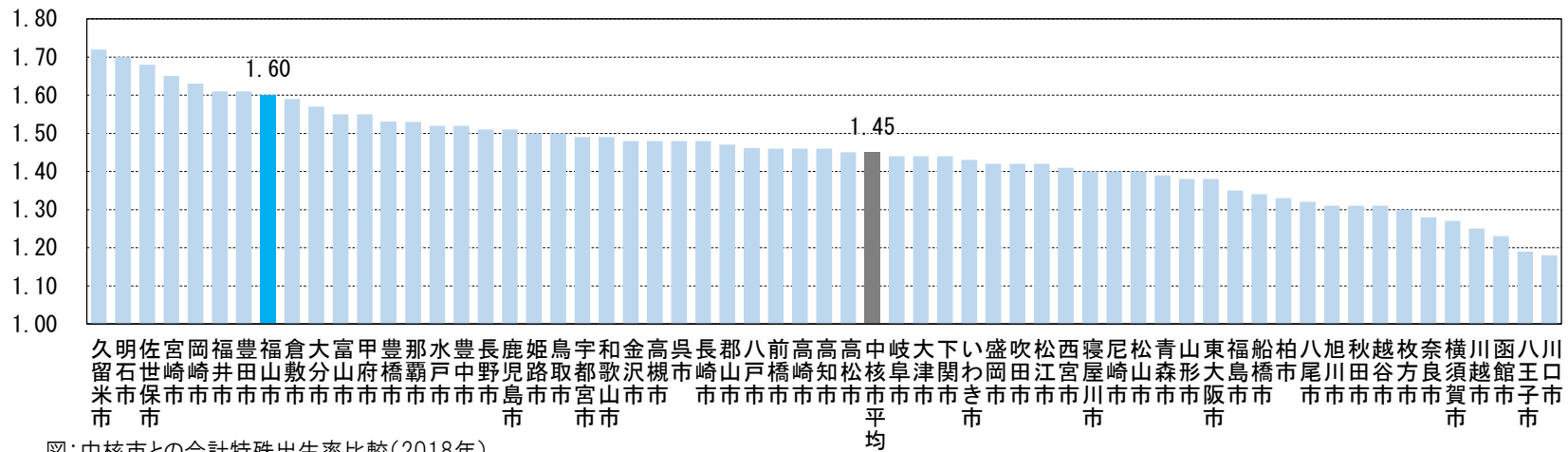
① 自然動態

【合計特殊出生率】

○ 合計特殊出生率は、2013年からの5年平均では1.73となっており、広島県平均の1.58を大きく上回っている。これは、県内で7番目の高い水準であり、特に都市部の中では突出して高い。また、2018年の値を中核市でみると、8番目に高くなっている。



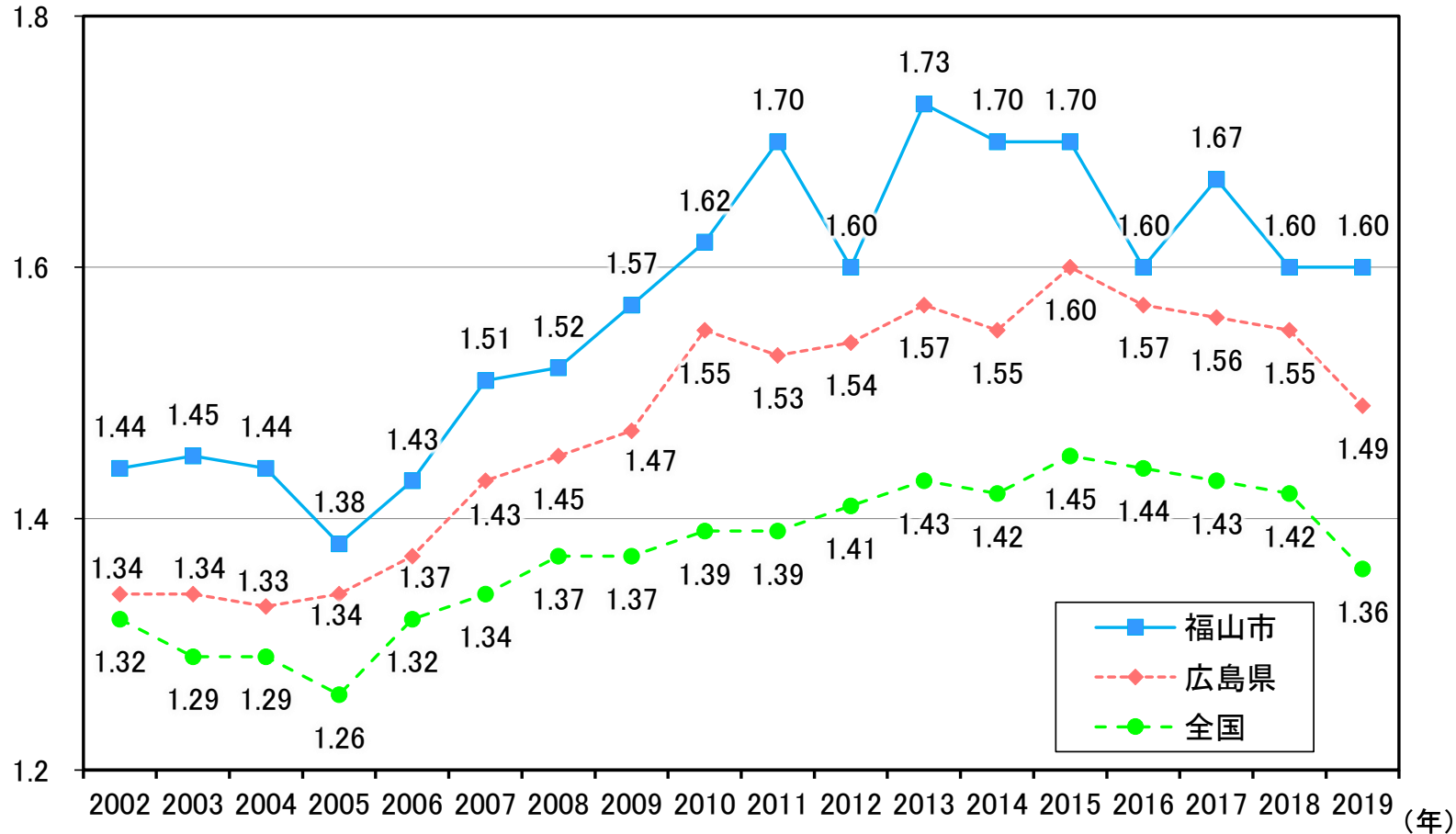
図表：県内市町との合計特殊出生率比較(2013年～2017年)
資料：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」(平成25年～平成29年)



図：中核市との合計特殊出生率比較(2018年)
資料：中核市市長会「都市要覧(統計指標)」(令和元年度)
※ 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

【全国・広島県・福山市の合計特殊出生率の推移】

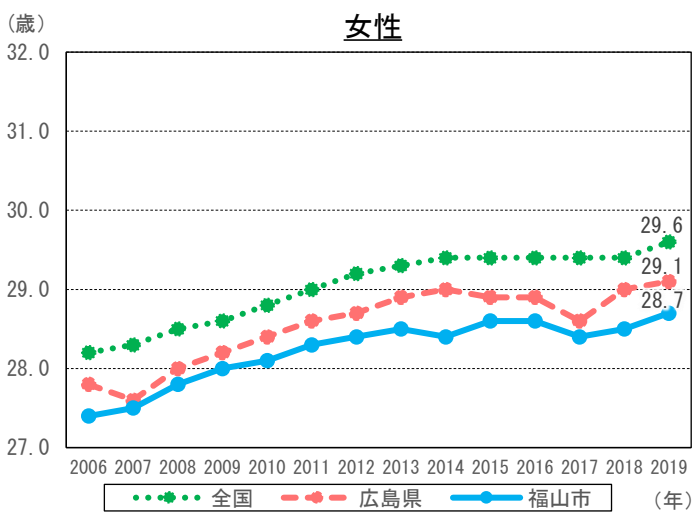
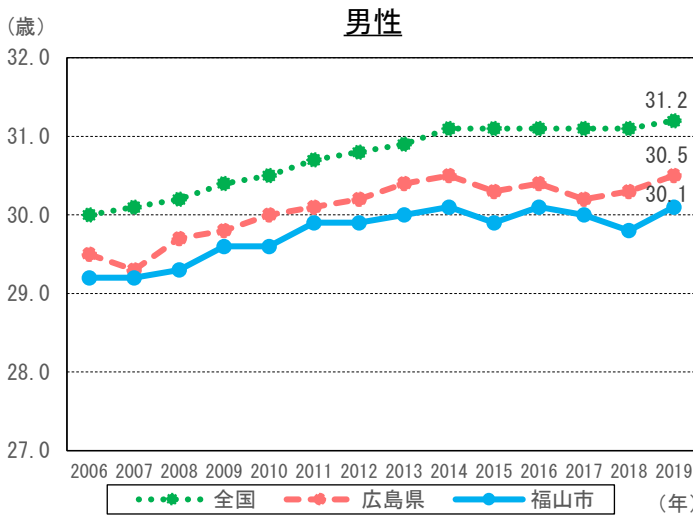
- 合計特殊出生率の推移をみると、一貫して、全国、広島県の平均を上回っており、年次による変化はやや大きいものの、2005年から2011年ごろまでは大幅に上昇している。
- その後は、全国や広島県の平均と同様にやや低下傾向にあり、近年は、1.6台で推移している。



図表：合計特殊出生率の推移
資料：福山市「福山市人口動態」

【初婚年齢の推移】

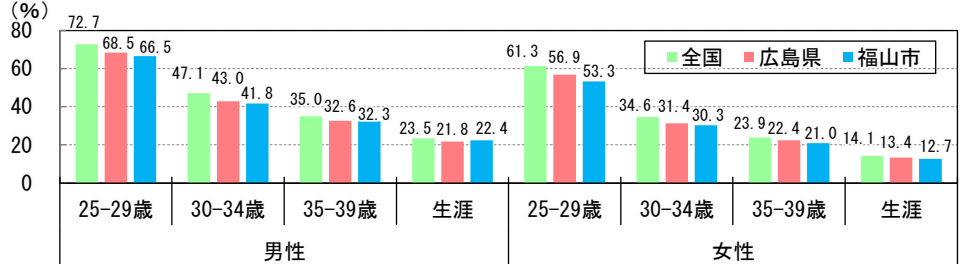
○ 2019年の福山市の初婚年齢は男性が30.1歳、女性が28.7歳であり、男女とも、全国・広島県の平均よりも低い。



図表: 平均婚姻(初婚者)年齢の推移
資料: 福山市「福山市人口動態」

【未婚率】

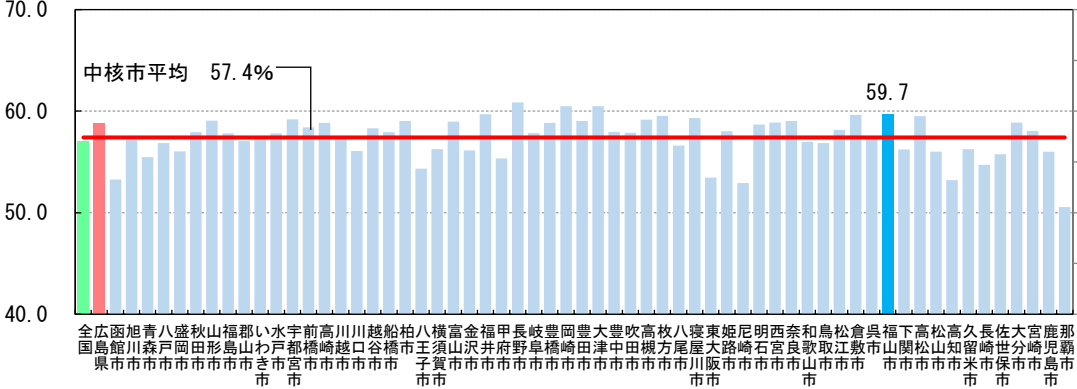
○ 男女ともに、25歳から39歳までの全ての年齢層で全国、広島県の平均よりも低くなっている。生涯未婚率は男性が広島県よりもやや高くなっているものの、女性は全国、広島県よりも低い。



図表: 年齢別未婚率(2015年) 資料: 総務省「国勢調査」(平成27年)

【有配偶率】

○ 福山市の有配偶率は59.7%であり、中核市の中で4番目に高い水準にある。



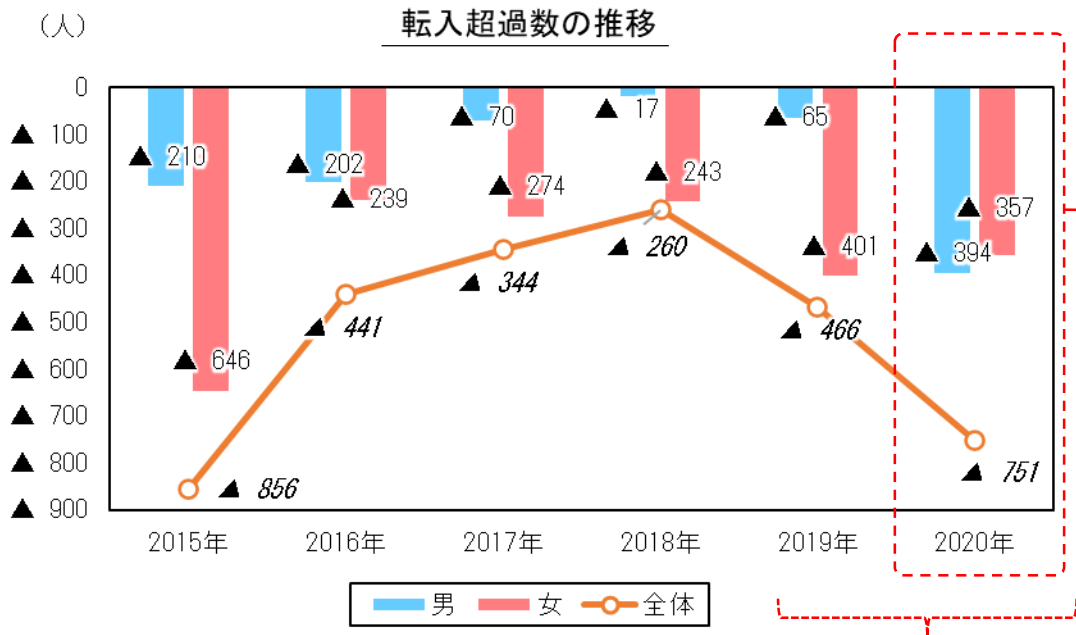
図表: 中核市有配偶率比較(2015年) 資料: 総務省「国勢調査」(平成27年)

○ 福山市は、全国、広島県と比較して初婚年齢や女性の未婚率が低くなっており、有配偶率は中核市の中で高水準となっている。これらが合計特殊出生率を高める要因となっていると考えられる。

② 社会動態

【転出入の状況(日本人)】

- 福山市の社会動態は、2018年までは転出超過が縮小傾向にあったが、2019年に再び拡大した。2020年は、コロナ禍で転出・転入数ともに減少し、転入数の大幅な減少によって700人超の転出超過となっている。
- これまで、女性の転出超過が大きい傾向にあったが、2020年は、男性の方が転出超過が大きくなり、年齢別では、20～24歳の転出超過が最も大きく、次いで、25～29歳の転出超過が大きくなっている。
- こうした若者の転出超過は、将来の出生数に影響を及ぼすことが懸念される。



	全体	男	女
全体	▲ 751	▲ 394	▲ 357
0～4歳	▲ 115	▲ 50	▲ 65
5～9歳	▲ 77	▲ 41	▲ 36
10～14歳	▲ 23	▲ 4	▲ 19
15～19歳	▲ 92	▲ 26	▲ 66
20～24歳	▲ 281	▲ 89	▲ 192
25～29歳	▲ 176	▲ 153	▲ 23
30～34歳	▲ 103	▲ 51	▲ 52
35～39歳	59	7	52
40～44歳	▲ 10	▲ 10	0
45～49歳	▲ 1	7	▲ 8
50～54歳	28	5	23
55～59歳	▲ 12	▲ 4	▲ 8
60～64歳	0	2	▲ 2
65～69歳	▲ 6	▲ 4	▲ 2
70～74歳	2	▲ 7	9
75～79歳	20	6	14
80～84歳	7	0	7
85～89歳	11	17	▲ 6
90歳以上	18	1	17

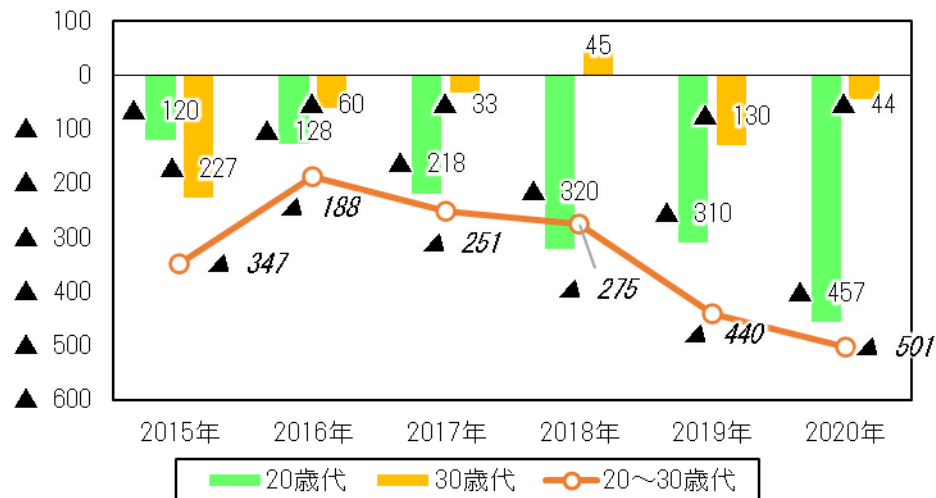
図表：転入超過数の推移
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

2019年			2020年		
転入	転出	増減	転入	転出	増減
9,991	10,457	▲466	9,579	10,330	▲751

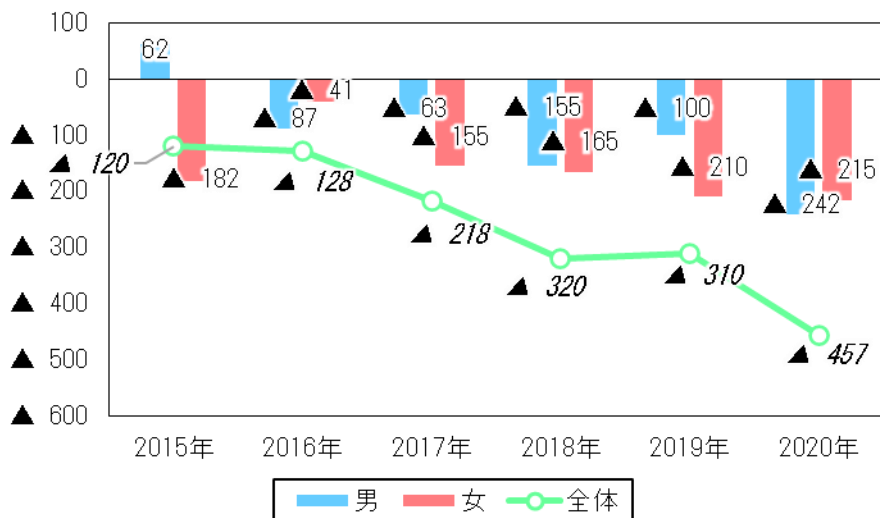
【20～30歳代の転出入の状況(日本人)】

- 20～30歳代の日本人の社会動態をみると、20歳代の転出超過が大きく、30歳代は転入超過となる年次もみられた。
- 20歳代は、転出超過が拡大傾向にある。
- 一方、30歳代は、2018年に転入超過であったが、その後は転出超過となっている。

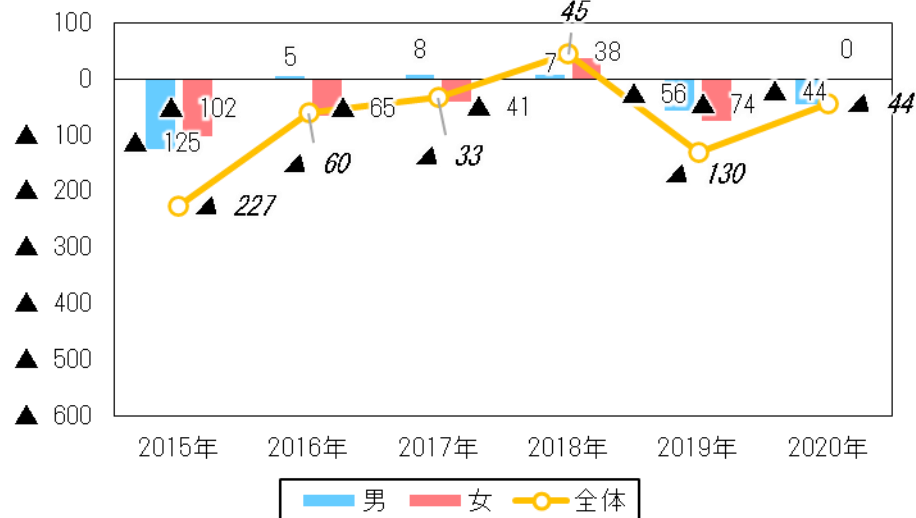
(人) 20歳代・30歳代 転入超過数



(人) 20歳代男女 転入超過数



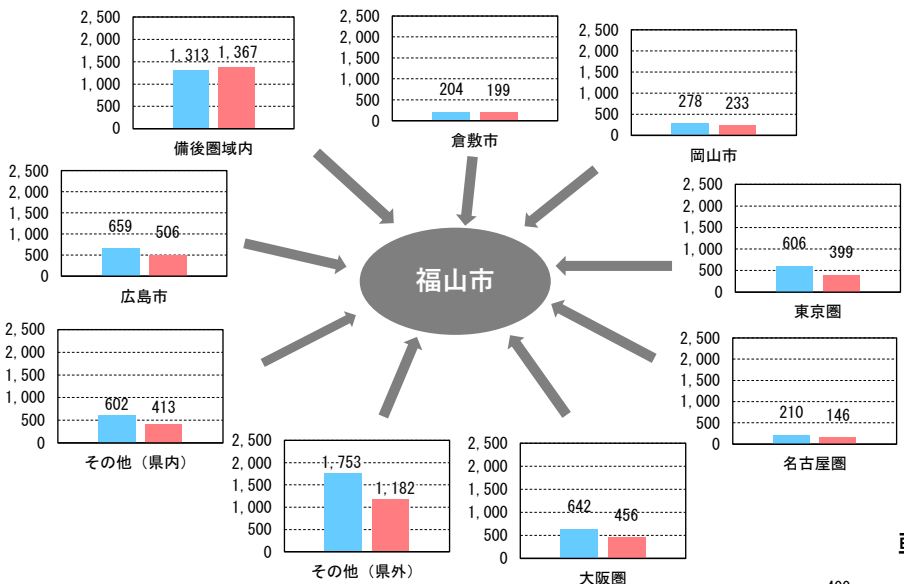
(人) 30歳代男女 転入超過数



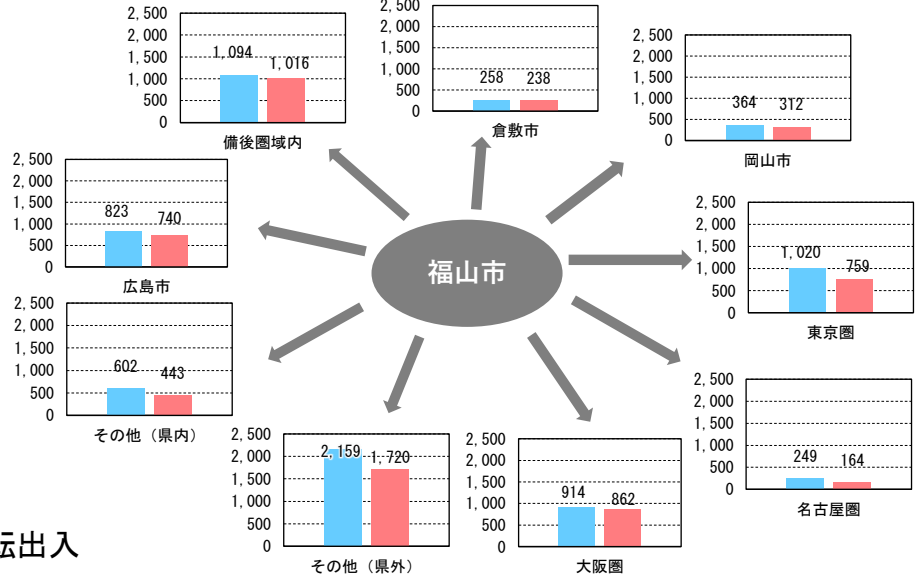
【主な圏域・都市別人口移動(外国人を含む)】

- 2019年の主な圏域・都市との人口移動の状況を見ると、尾道市、府中市などを中心に、備後圏域内の市町からは概ね転入超過となっており、備後圏域における福山市の求心力は大きいといえる。
- 一方で、広島市、岡山市、倉敷市などの近隣の主要都市や大阪、東京などの大都市圏に対しては転出超過となっており、備後圏域外へ人口が流出している。備後圏域における一定のダム効果は発揮しているものの、域外流出に伴う社会減となっている。

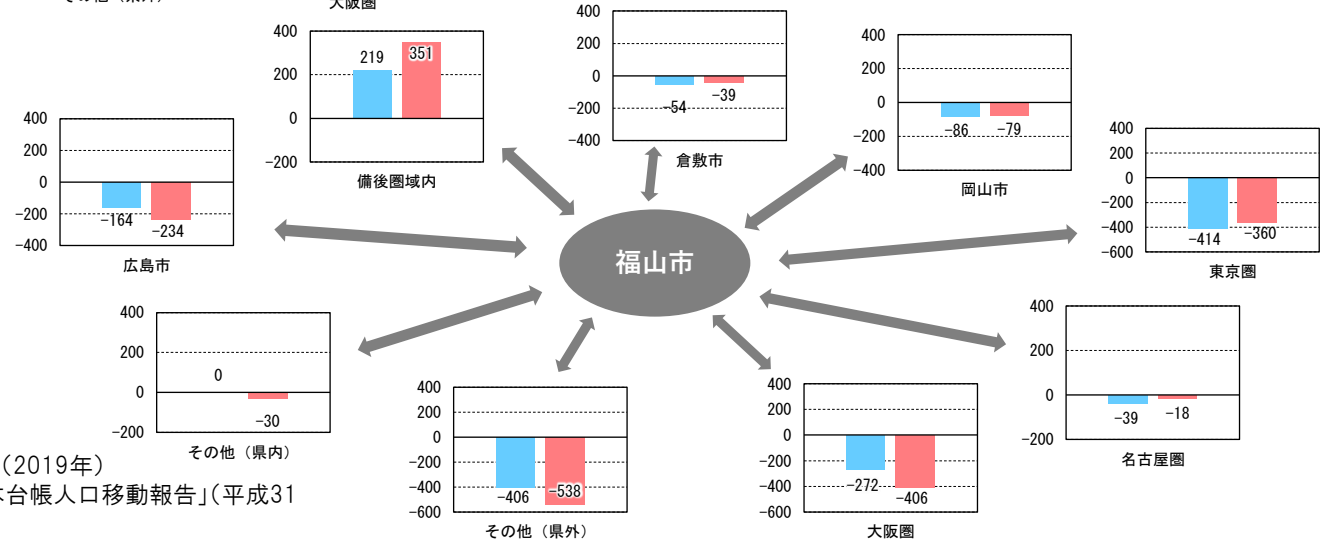
転入



転出



転出入

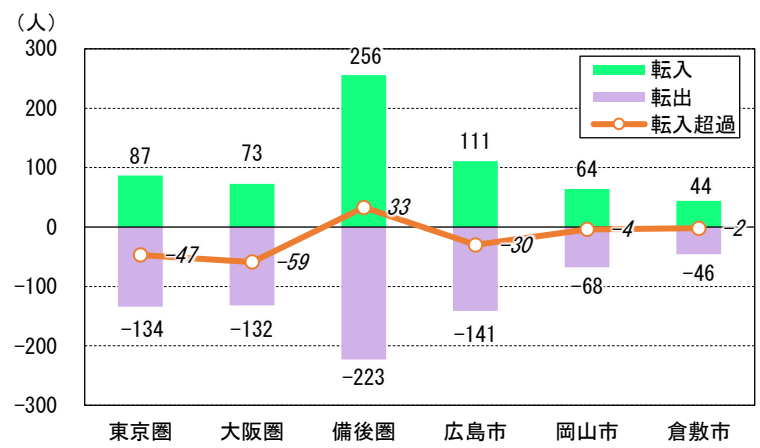
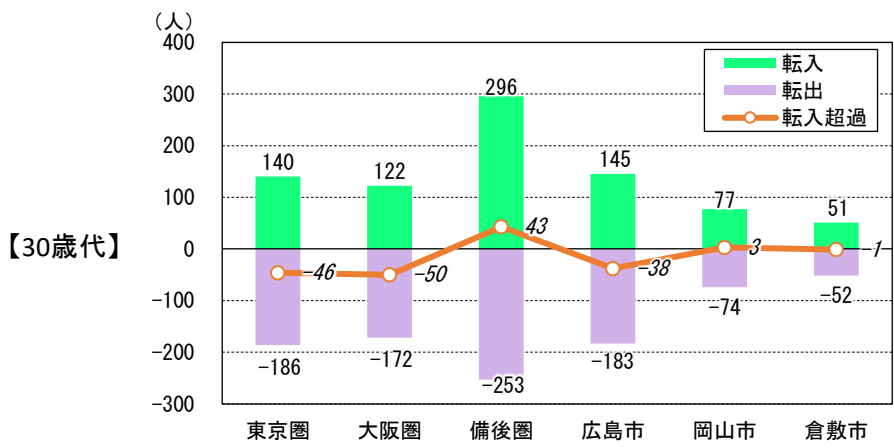
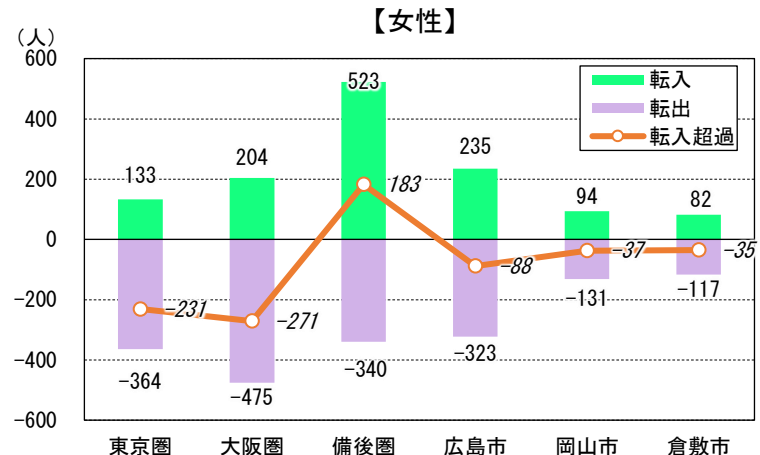
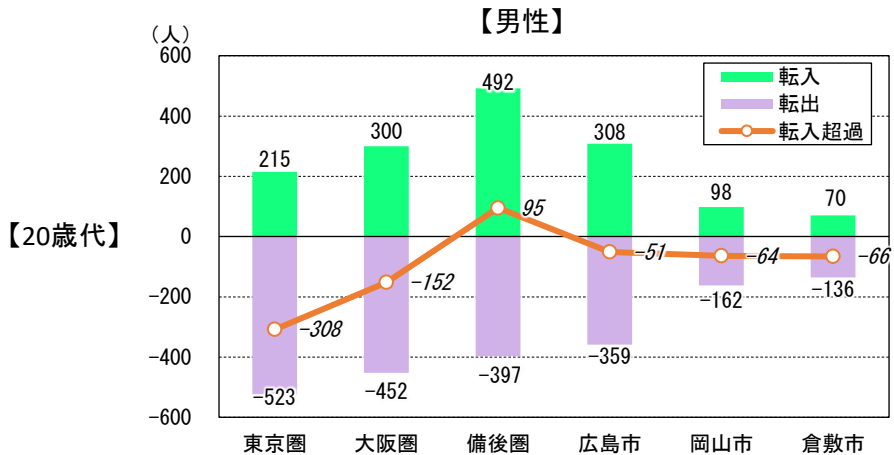


(凡例)
 (単位: 人)
 男 女

図表: 地域別 転出入数(2019年)
 資料: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(平成31年・令和元年)

【20～30歳代の主な圏域・都市別人口移動(外国人を含む)】

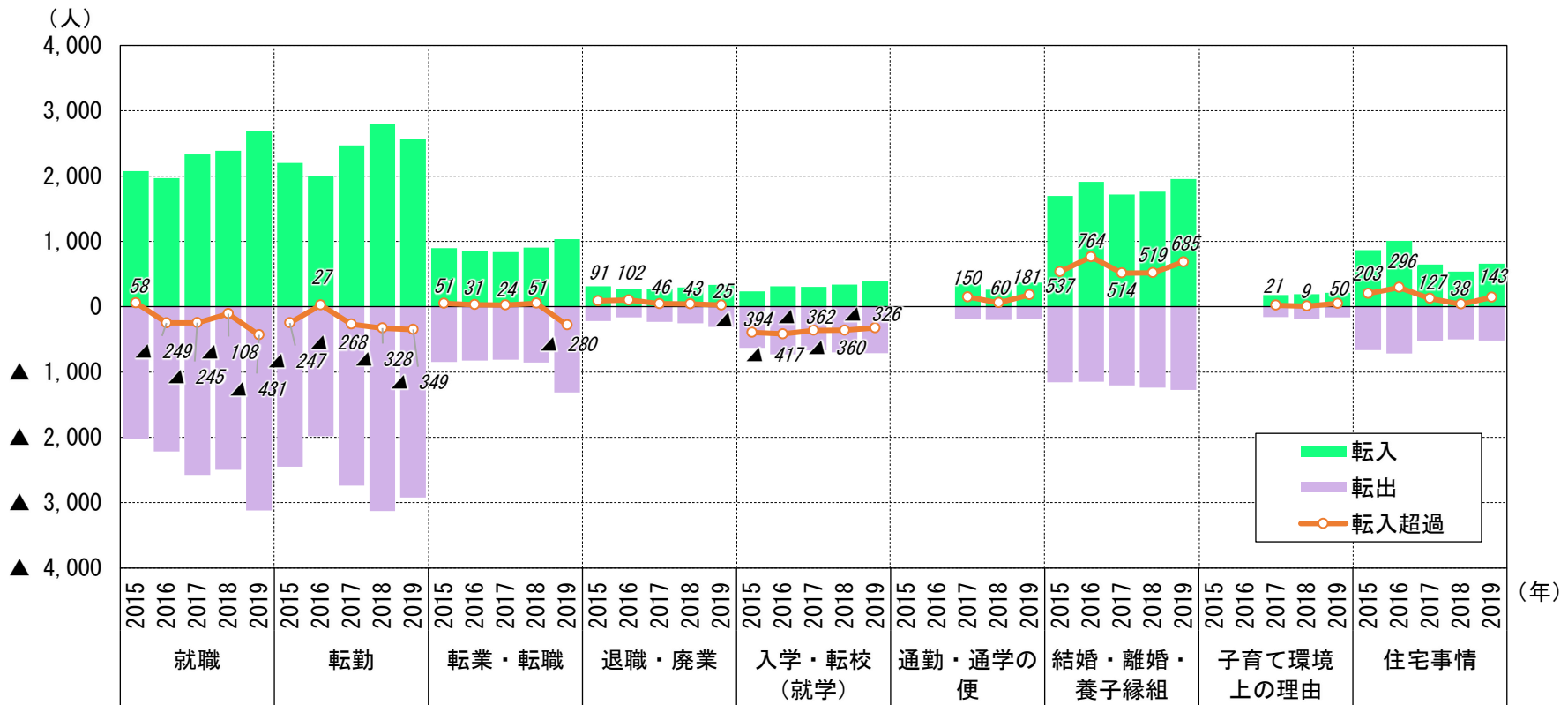
- 2019年の20～30歳代の主な圏域・都市別の人口移動をみると、20歳代では、備後圏域に対しては男性よりも女性の方が転入超過数が多くなっている。一方、転出超過となっている東京圏に対しては女性よりも男性の方が転出超過数が70人以上多くなっている。大阪圏に対しては男性よりも女性の方が転出超過数が多くなっている。
- 30歳代では、男性女性ともに東京圏、大阪圏、広島市に対してはやや転出超過となっており、備後圏域に対してはやや転入超過、岡山市、倉敷市に対してはほぼ均衡している。



図表：年齢別地域別転入超過数の推移(2019年)
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(平成31年・令和元年)

【理由別 転出入数】

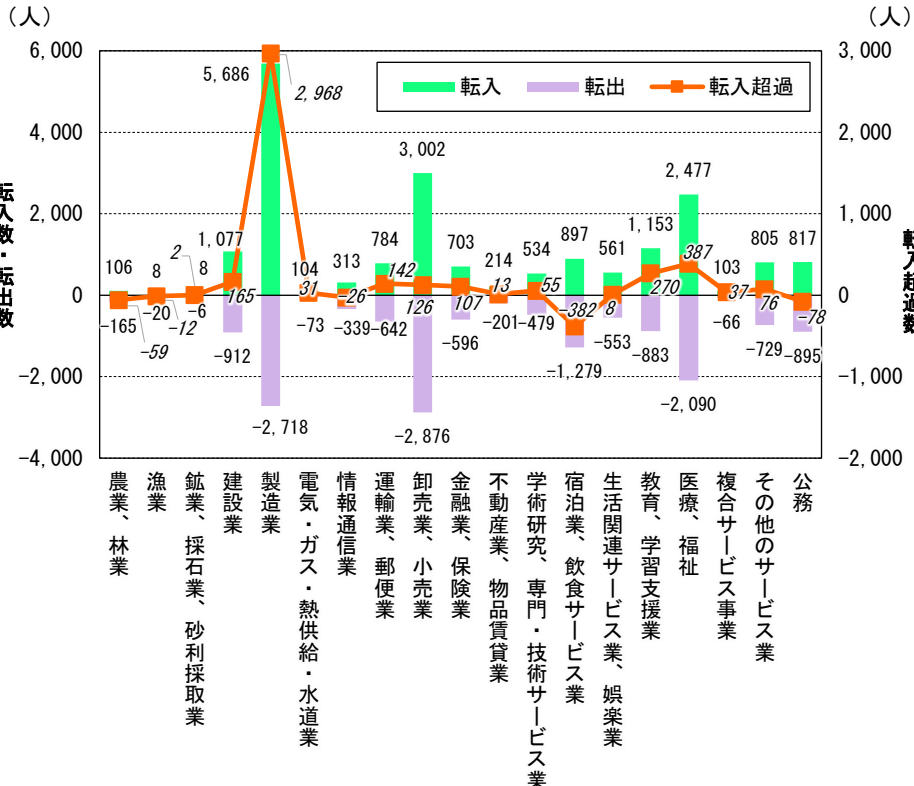
- 主な理由別に福山市への転入数，転出数をみると，多いのは，転入・転出ともに「就職」，「転勤」で，次いで，「結婚・離婚・養子縁組」の順となっている。
- 「就職」，「転勤」については，年次による変化は大きいものの，直近では転出超過傾向にあり，雇用関係の理由により人口が流出している。
- 一方で，「結婚・離婚・養子縁組」については，転入超過のまま推移しており，毎年500人以上の転入超過が継続している。「住宅事情」については近年，転入数がやや減少しているものの，転入超過を維持している。そのほか，2017年から集計が始まった「子育て環境上の理由」はわずかではあるが転入超過となっている。



図表：理由別 転出入数の推移
 資料：広島県「人口移動統計」及び福山市資料から作成
 ※ 広島県人口移動統計の理由別移動者数は任意調査のため，福山市の各年次の転入数・転出数に合致するよう補整を行い理由別移動者数を推計した。

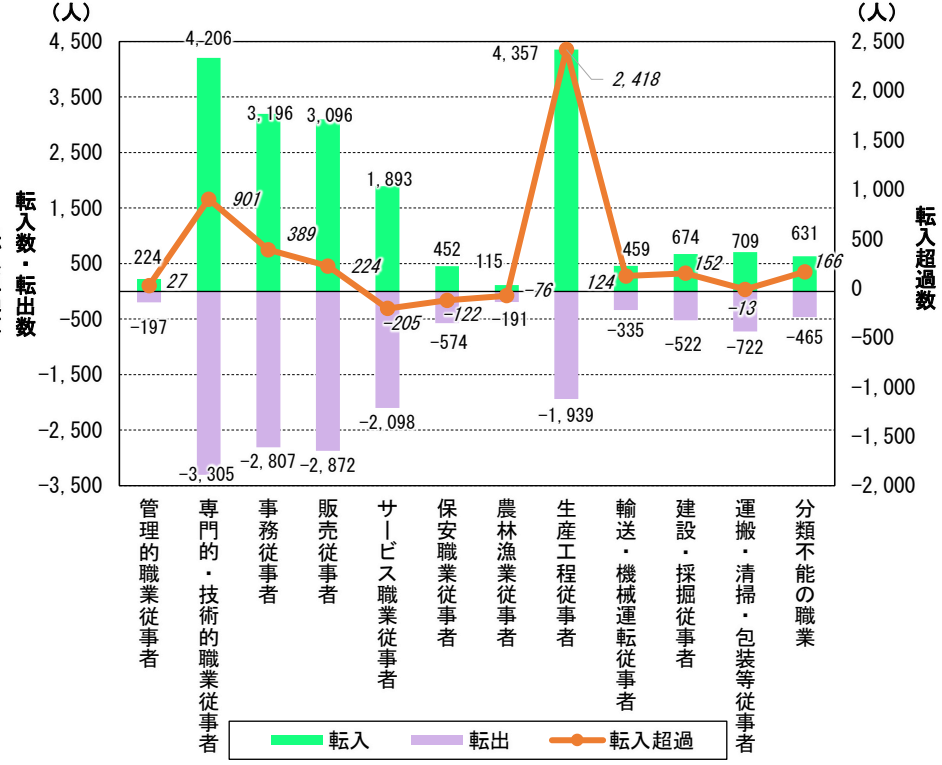
【産業別 転出入数】

- 産業分類別に、福山市への転入数、転出数をみると、製造業の転入超過が突出して大きく、基幹産業である製造業の求心力が人口流入の下支えをしている。そのほか、医療、福祉、教育、学習支援業もやや転入超過が大きくなっている。一方で、宿泊業・飲食サービス業で転出超過が大きく、主にサービス業などで、人口が流出している。
- 今後、人口流出の抑制を図っていくためには、転出超過の大きい宿泊業・飲食サービス業や、需要拡大に伴う更なる人口流入が期待できる医療・福祉などの産業についての雇用創出が必要と考えられる。



【職業分類別 転出入数】

- 職業分類別に、福山市への転出入数をみると、生産工程従事者の転入超過が突出して大きく、製造業での人口流入が大きいと考えられる。また、専門的・技術的職業や事務、販売、建設・採掘も転入超過となっている。
- 一方、サービス職業、保安職業などの従事者については転出超過となっており、産業分類と同様に商業系の業種で人口が流出している。
- 今後、人口流出を抑制していくためには、製造業における雇用を維持しながら、特に女性を中心に、製造業以外の専門職、事務職、販売職などの雇用の場を確保する必要があると考えられる。

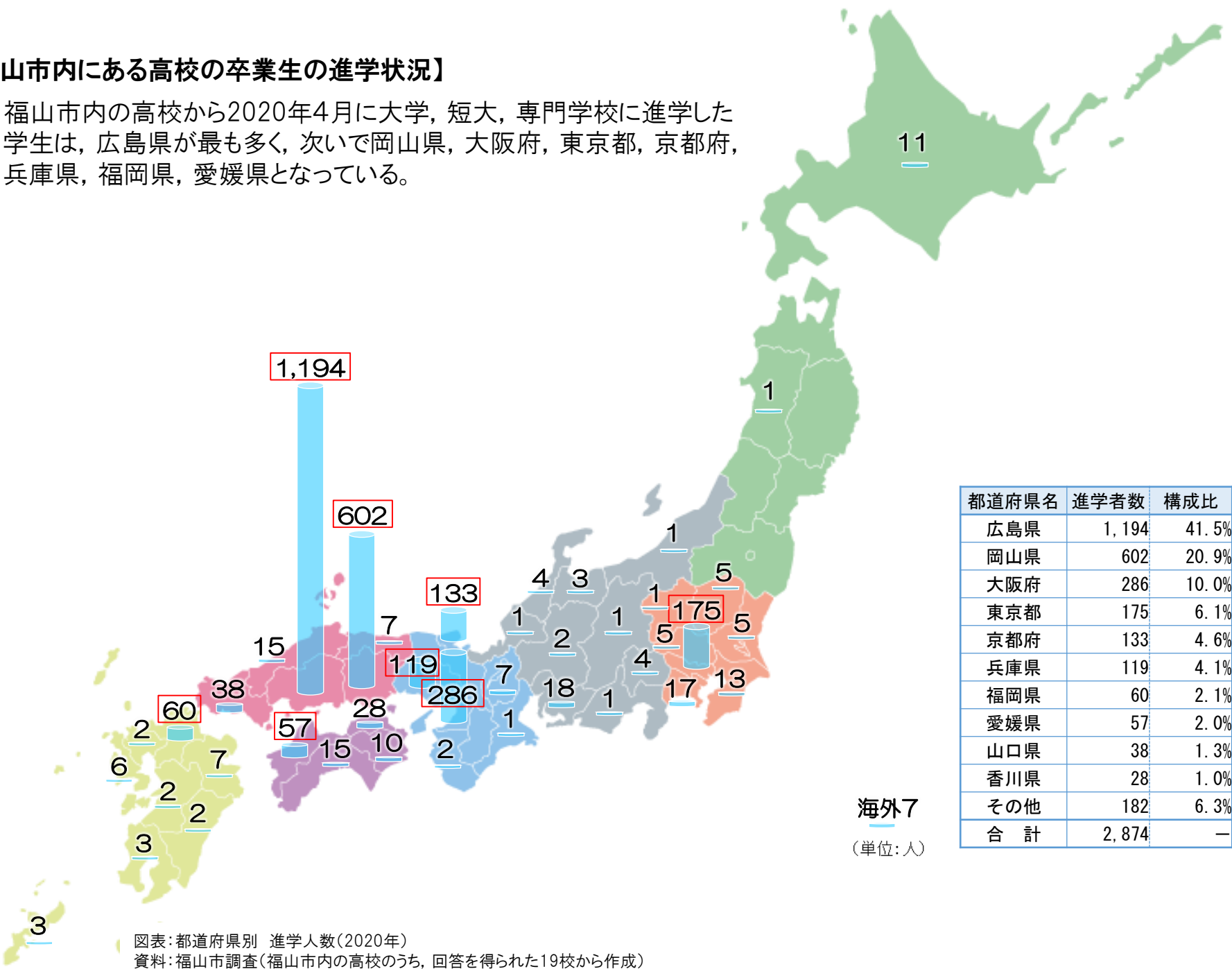


図表：産業別 転出入数(2010年(平成22年)→2015年(平成27年))
資料：総務省「国勢調査」(平成27年)

図表：職業分類別 転出入数(2010年(平成22年)→2015年(平成27年))
資料：総務省「国勢調査」(平成27年)

【福山市内にある高校の卒業生の進学状況】

○ 福山市内の高校から2020年4月に大学，短大，専門学校に進学した学生は，広島県が最も多く，次いで岡山県，大阪府，東京都，京都府，兵庫県，福岡県，愛媛県となっている。



都道府県名	進学者数	構成比
広島県	1,194	41.5%
岡山県	602	20.9%
大阪府	286	10.0%
東京都	175	6.1%
京都府	133	4.6%
兵庫県	119	4.1%
福岡県	60	2.1%
愛媛県	57	2.0%
山口県	38	1.3%
香川県	28	1.0%
その他	182	6.3%
合計	2,874	—

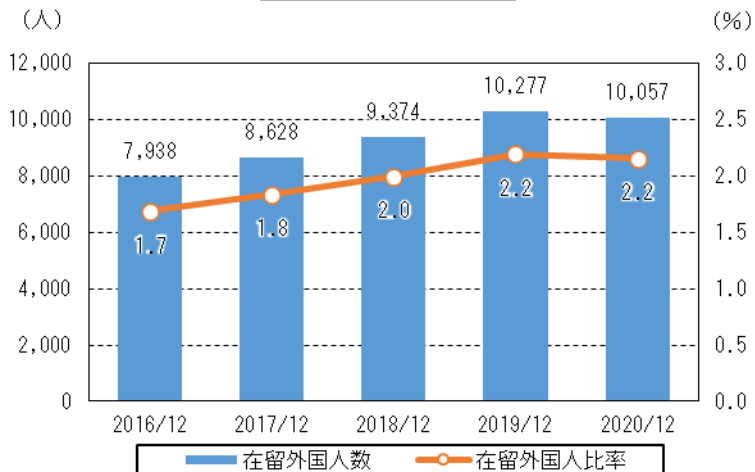
海外7
(単位:人)

図表: 都道府県別 進学人数(2020年)
資料: 福山市調査(福山市内の高校のうち, 回答を得られた19校から作成)

【外国人住民の状況】

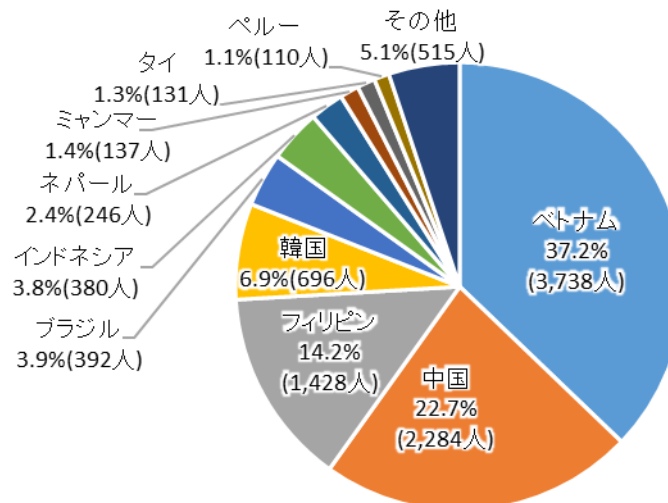
- 本市の外国人住民は年々増加しており、2019年末には1万人を突破し、全人口に対するシェアは2.2%まで高まっている。一方で、2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、2月の10,447人をピークに減少し、12月時点で10,057人となっている。
- 外国人住民の国籍をみると、ベトナムが37.2%で最も多く、これに中国(22.7%)、フィリピン(14.2%)が続く。
- 外国人住民の移動をみると、転入超過で推移しているものの、内訳をみると、国外移動では転入超過となっているのに対し、国内移動では転出超過となっている。本市を経由して他地域へ移動する外国人住民が多いと考えられる。

外国人住民の推移



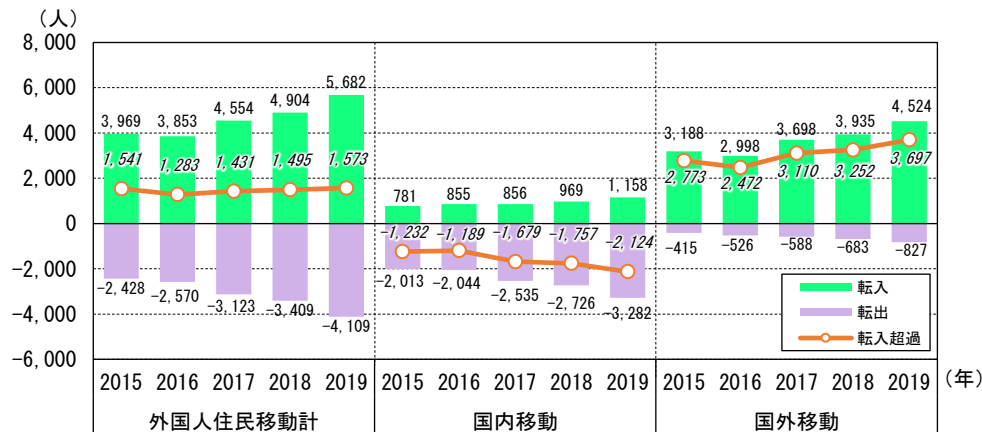
図表：在留外国人人数と全人口に対する在留外国人比率の推移
資料：福山市資料

外国人の国籍別割合



図表：国籍別在留外国人構成比(2020年12月時点)
資料：福山市資料

外国人住民の社会増減の推移

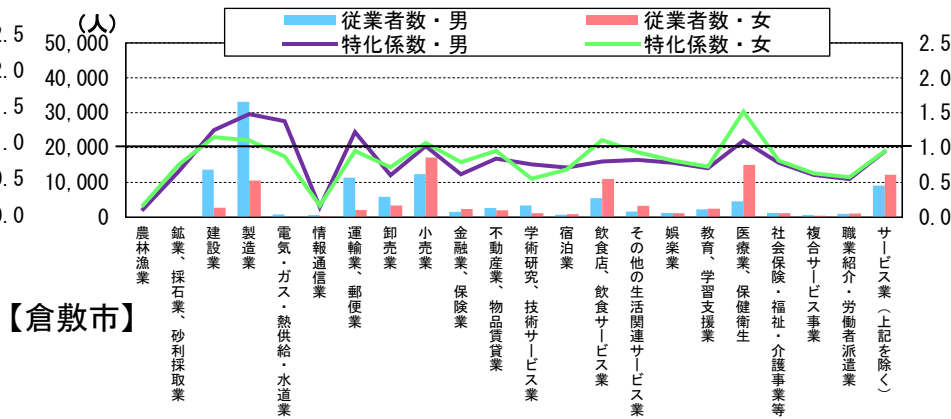
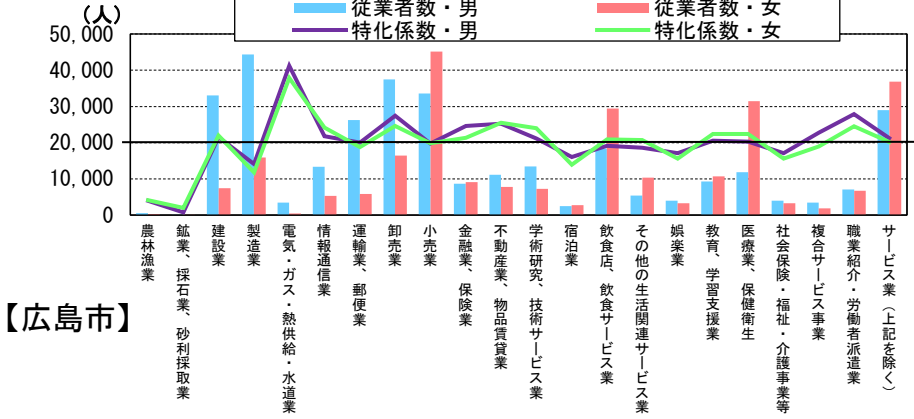
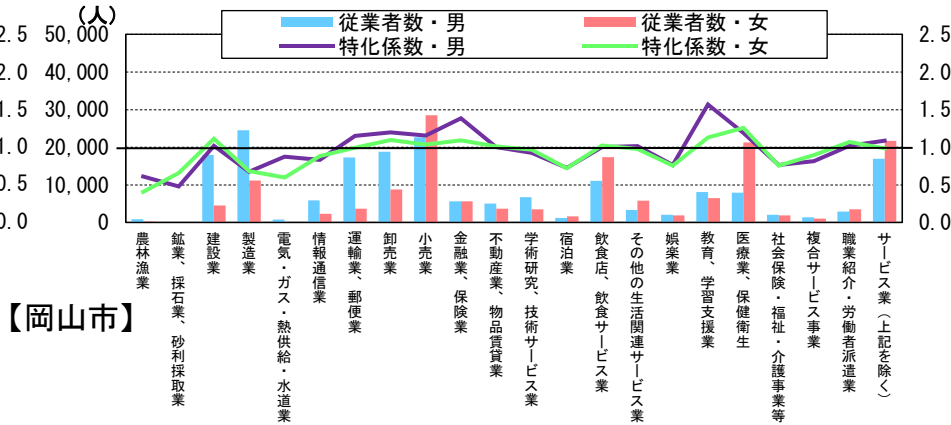
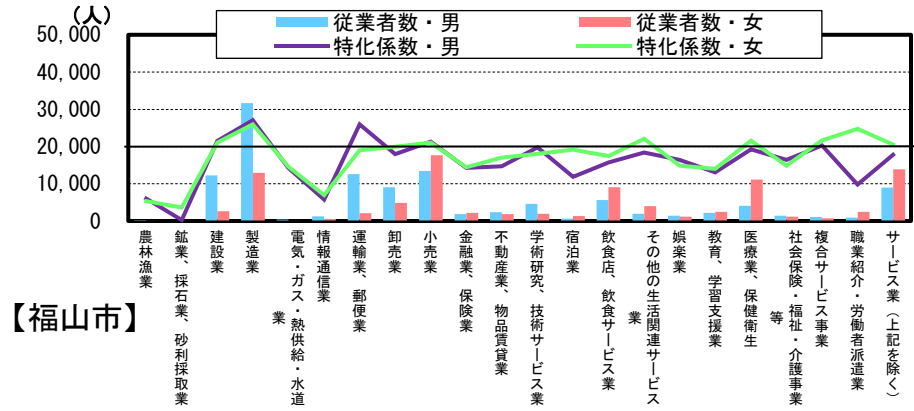


図表：外国人住民の社会増減数の推移
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

3 産業・雇用の現状分析

(1) 産業別就業者数 ～福山市・広島市・岡山市・倉敷市の比較～

- 福山市の産業別就業者数をみると、男性は製造業、運輸業・郵便業、建設業などで多く、女性は小売業、製造業、医療・保健、飲食店・飲食サービス業などで多い。
- 特化係数でみると、製造業や運輸業・郵便業などで高く、製造業やこれに関連する産業の集積度が高いことが分かる。一方で、情報通信業や教育・学習支援業、金融・保険業、不動産業などで特化係数が低い。
- 近隣都市と比較すると、福山市で特化係数が低い情報通信業や教育・学習支援業、金融・保険業、不動産業などは、広島市や岡山市などで集積度が高くなっている。福山市では製造業以外の雇用の受け皿が少なく、近隣都市への人口流出の一因となっていると考えられる。
- また、医療・保健など、女性の従業者が多い産業は、特化係数が1前後で平均的であるが、岡山市や倉敷市などの近隣の都市では、この産業の特化係数が高く、集積が進んでいることから、近隣のこれらの都市への女性の人口流出が懸念される。

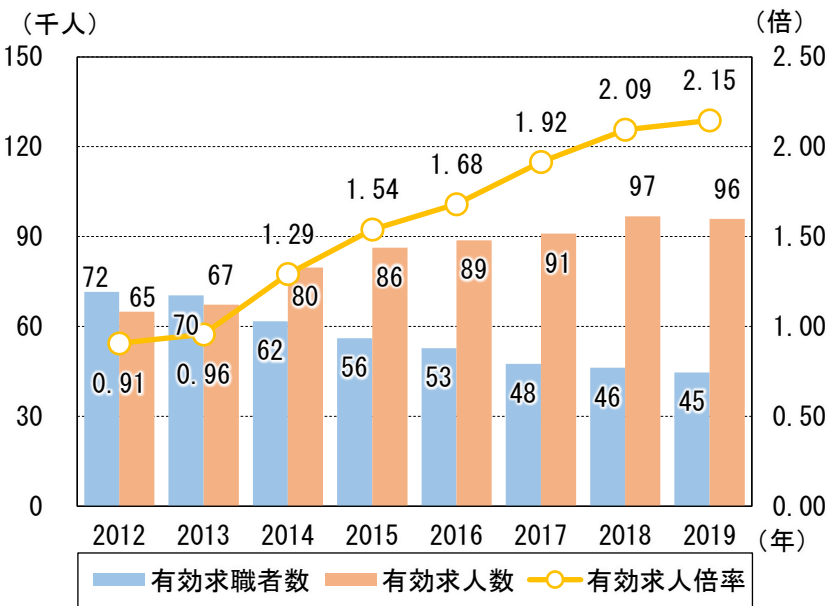


図表：経済センサスによる業種別特化度 資料：総務省「平成28年経済センサス-活動調査」
 ※ 特化係数：当該自治体の業種別構成比を全国の業種別構成比で割った数値。構成比が全国平均よりも高ければ1.0以上となり、当該産業が特徴的に集積していることを示す。

(2) 雇用情勢

【有効求人倍率】

- 福山市の雇用情勢をみると、有効求人数は増加傾向にあり、近年は9万人超で推移している。一方、有効求職者数は減少傾向にあり、2017年には5万人を下回り、直近の2019年は4.5万人となっている。
- このため、有効求人倍率は年々上昇していたが、2020年はコロナ禍の影響により低下している。



※参考 2021年1月有効求人倍率:1.67

図: 有効求職者数・有効求人数・有効求人倍率の推移
資料: 福山公共職業安定所「業務年報」
※ 学卒・パートは除く

【非正規雇用者】

- 福山市の雇用者の状況をみると、雇用者数は男女ともに増加している。
- 非正規雇用者比率をみると、男性は上昇しており、女性は横ばいとなっているものの半数以上が非正規雇用者となっている。
- 全国、広島県と比較すると、福山市の非正規雇用者比率はやや低くなっている。

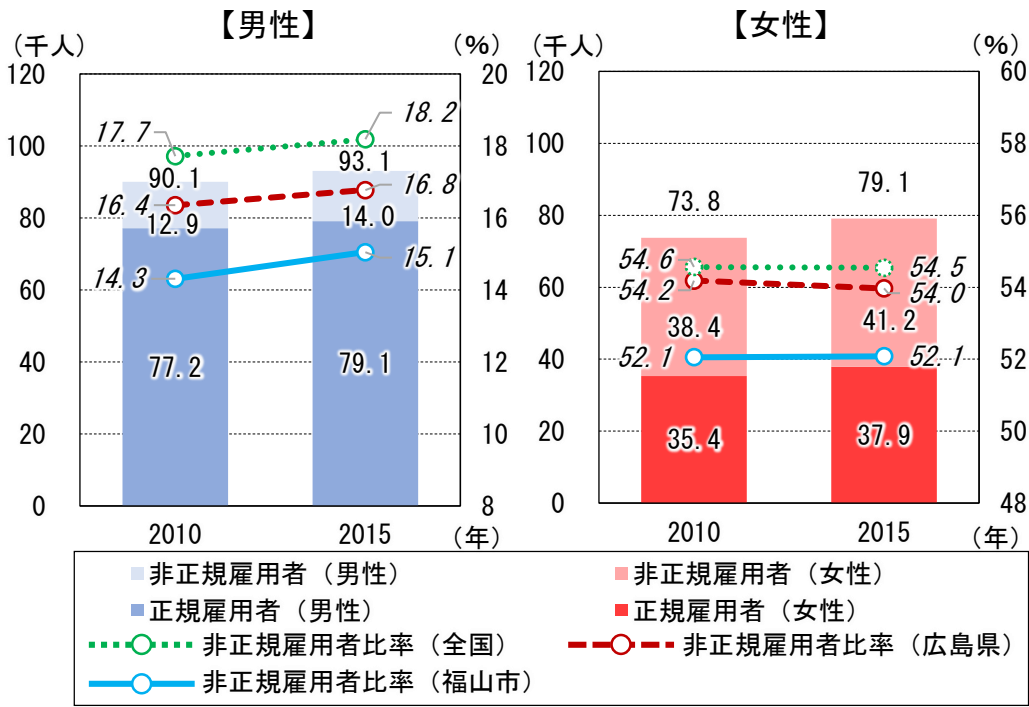
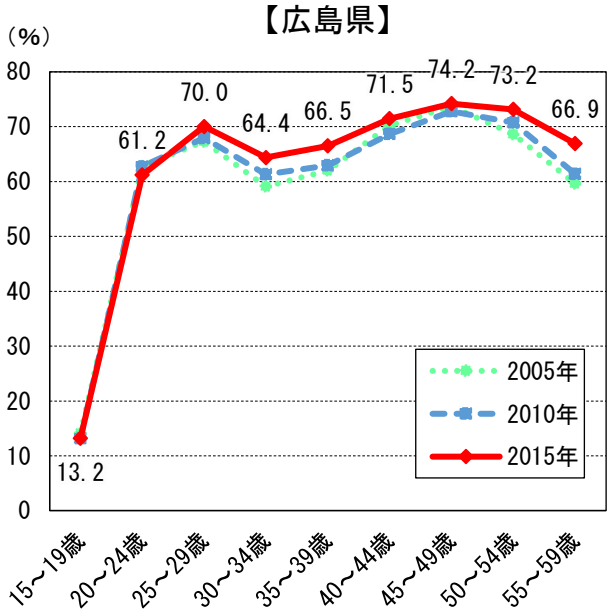
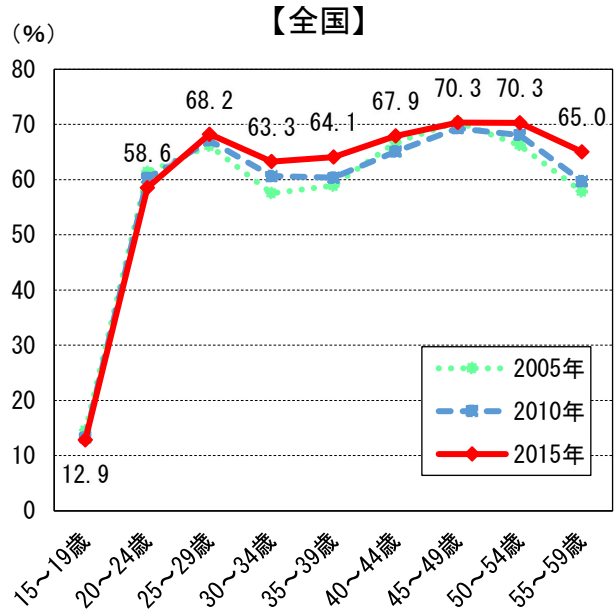
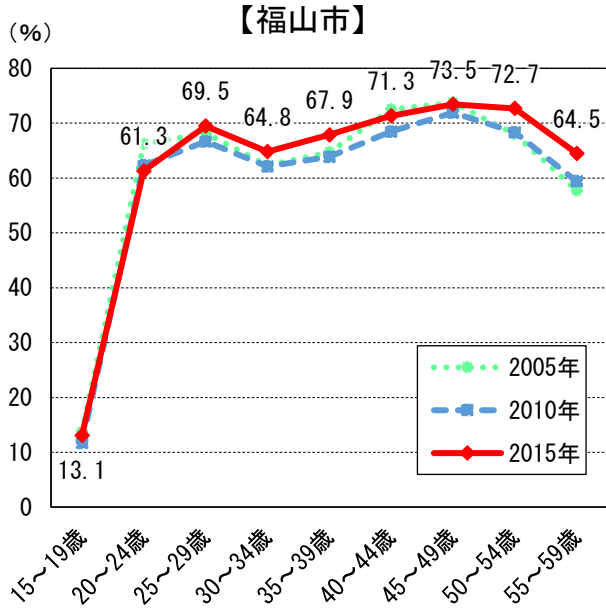


図: 男女別正規・非正規雇用者数の推移
資料: 総務省「国勢調査」

(3) 女性の就業率

- 福山市の女性の就業率の推移をみると、2010年から2015年にかけて、多くの年齢階層で就業率が上昇しており、特に25～29歳から35～39歳、50歳代での上昇率が大きい。また、全国と比べても、ほとんどの年齢階層で就業率が上回っており、福山市における女性の就業率は比較的高いといえる。
- ただし、2015年においても、子育て期に当たる30歳代にいったん就業率が低下するM字カーブが現れており、子育て期の女性の働きやすさについて検討が必要である。



図：年齢階級別女性の就業率の推移
資料：総務省「国勢調査」

4 人口に関する課題と人口減少対策の方向性

(1) 人口に関する現状と課題

自然増減

- 福山市の人口(日本人)は、2010年代に入って、少子高齢化の影響から死亡者数が出生者数を上回る自然減となり、人口減少に転じた。
- 出生に関しては、有配偶率が高く、女性の未婚率が低いことなどから、合計特殊出生率は中核市など一定規模以上の都市の中で比較的高水準にあり、年少人口比率等も比較的高い水準が維持されている。
- しかし、出生数は減少しており、子育ての不安を解消することや20歳代、30歳代の女性の転出超過を抑制する必要がある。

社会増減

- 社会増減の状況について、近年、転出超過が縮小傾向にあったが、2019年に再び拡大している。2020年は、コロナ禍で転出・転入数ともに減少し、転入数の大幅な減少によって転出超過が拡大している。
- 特に、20歳代の転出超過が継続しており、将来の出生数に影響を及ぼすことが懸念される。
- 地域別では、備後圏域内の市町からは概ね転入超過となっている。備後圏域において本市は、一定のダム効果を発揮しているものの、東京圏、大阪圏、広島市に対しては大幅な転出超過となっており、特に20歳代の男女では東京圏、大阪圏への転出超過が顕著である。
- 移動理由をみると、就職や進学での転出超過が大きく、近年は転勤を理由とする転出超過も拡大している。一方、結婚・離婚・養子縁組や住宅事情、子育て環境などの理由では転入超過となっていることから、若者・女性にとって魅力的な働く場の創出や雇用のミスマッチ解消が喫緊の課題と考えられる。
- 外国人住民の状況を見ると、年々増加しており、近年はベトナム人が最も多くなっている。移動の状況を見ると、転入超過となっているものの、国外移動では転入超過、国内移動では転出超過となっている。

産業・雇用

- 産業構造を産業別就業者数でみると、製造業、運輸業・郵便業などの集積が高くなっている。
- 一方、情報通信業や教育・学習支援業、金融・保険業、不動産業などの集積は低くなっている。これら産業は、広島市や岡山市などの大都市圏で集積度が高くなっており、こうした産業への就職を希望する人は、大都市圏へ流出する可能性が高くなっている。
- また、医療・保健など、女性の従業者が多い産業は、特化係数が1前後で平均的であるが、これら産業の特化係数が高く、集積が進んでいる岡山市や倉敷市などの近隣の都市への女性の人口流出が懸念される。
- 雇用情勢については、近年、有効求人倍率の上昇が続いていたが、2020年はコロナ禍の影響により低下している。雇用に占める非正規雇用者比率は、2010年から2015年にかけて男性で上昇しており、女性は半数以上が非正規雇用者となっている。引き続き、コロナ禍による雇用や就業環境への影響を注視する必要がある。

(2) 人口減少対策の方向性

次の方向性を踏まえ、データに基づいた政策ターゲット(人物像)^{ペルソナ}を設定し、官民一体となって取り組む。

方向性 1 若い世代が思い描くライフスタイルをかなえることができる社会を実現する

- 寛容で多様性のある都市づくりにより、若い世代が希望し、満足できる子育てや教育、仕事、働き方などが実現できる社会環境を整備する。

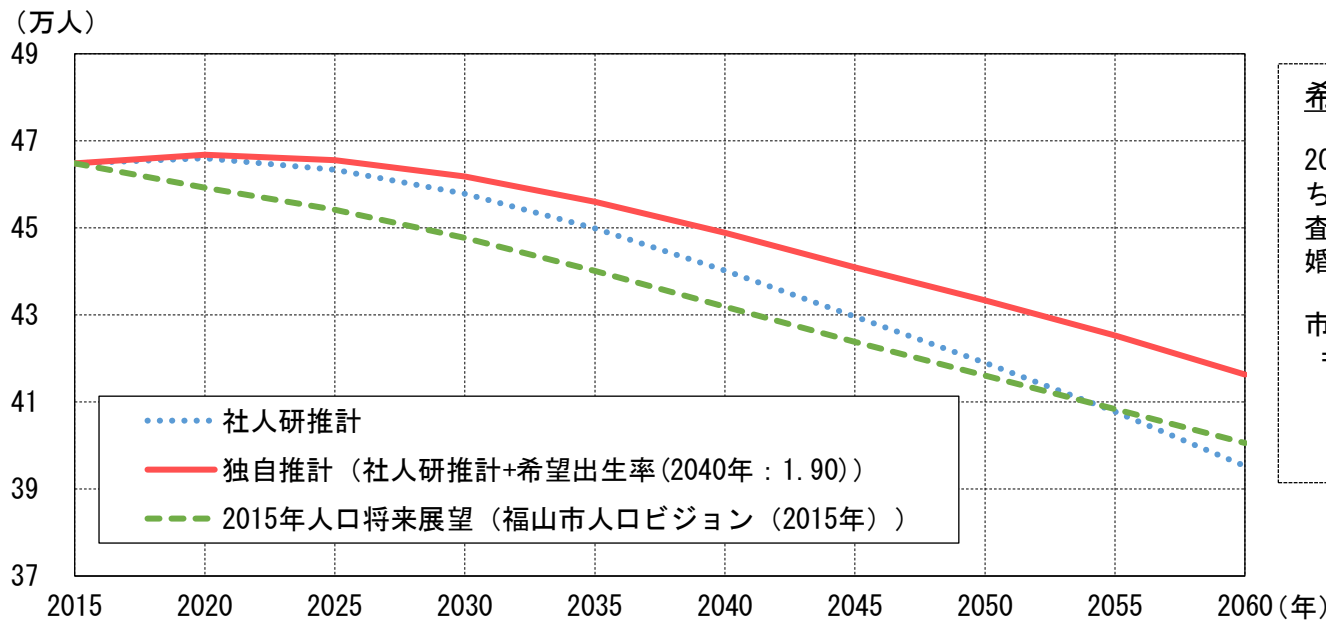
方向性 2 大都市圏等からの新たな人の流れを定着させ、多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組む

- 若者や地方に関心のある者の定着・移住につながるよう、ワーケーションなど瀬戸内での豊かな暮らしや柔軟な働き方を提案することで、関係人口など新たな人の流れを確かなものとし、多様な人材が活躍できる環境づくりを推進する。

5 人口将来展望

【人口将来展望】

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」による福山市の将来人口推計をみると、2020年の46.6万人をピークに減少することが見込まれている。
- また、福山市の希望出生率1.90の達成時期を2040年とした場合は、同推計と比較して、人口減少傾向は2060年時点で約2.1万人改善することが見込まれる。



希望出生率 (1.90) とは

2020年3月実施の「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート調査」で得られた18～39歳の市民の結婚・出産に対する意識から算出。

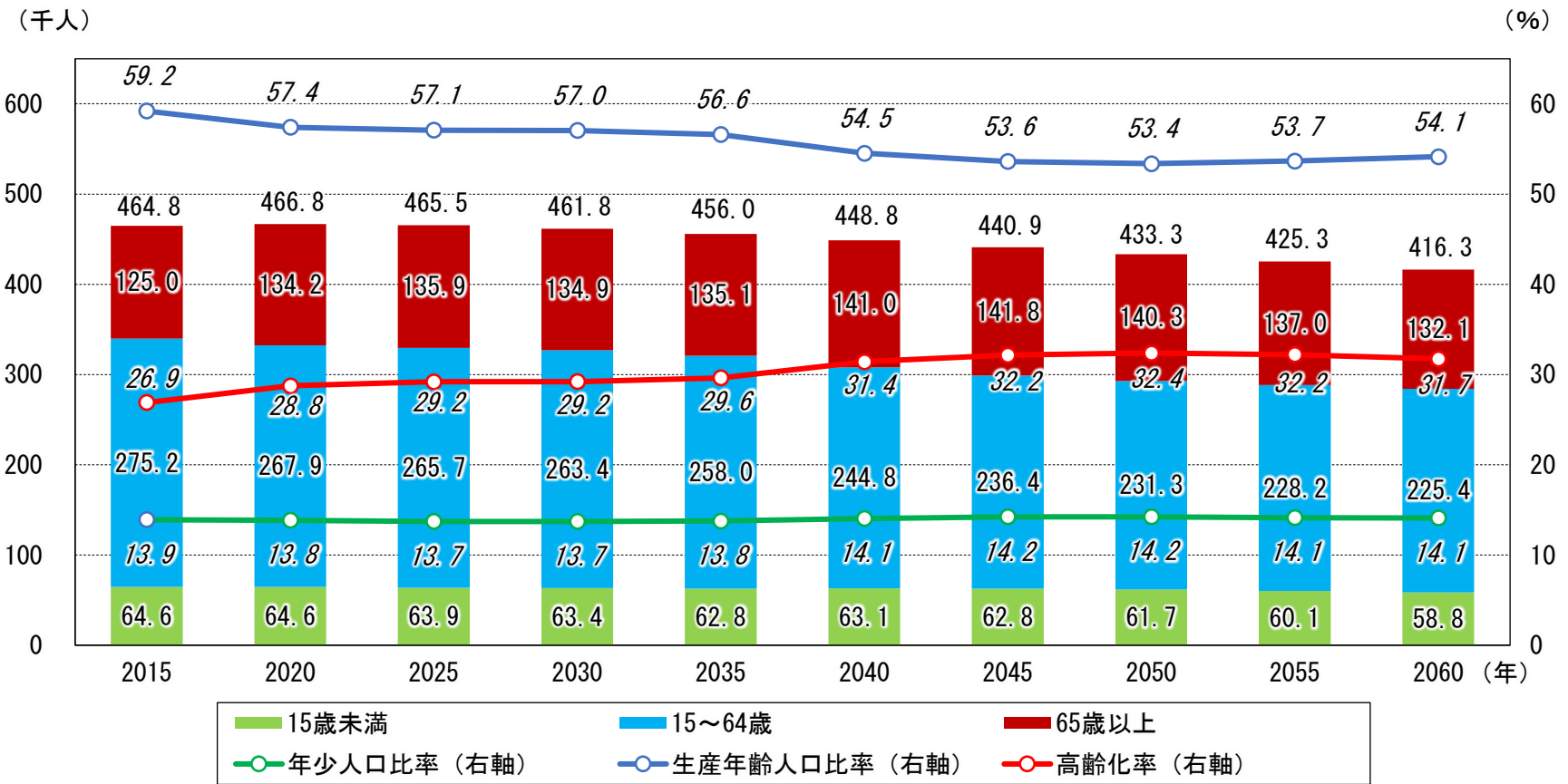
市民希望出生率
 = (既婚者等の割合 × 理想子ども数)
 + (独身者の割合 × 独身者の結婚希望率 × 独身者の理想子ども数)
 × 離死別等の影響

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
社人研推計	464,811	465,995	463,315	457,805	449,848	440,169	429,582	419,006	407,770	395,244
独自推計 (社人研推計+希望出生率(2040年: 1.90))	464,811	466,797	465,512	461,761	455,951	448,823	440,943	433,317	425,276	416,271
2015年人口将来展望 (福山市人口ビジョン(2015年))	464,811	459,219	454,136	447,675	440,111	431,894	423,792	416,063	408,312	400,530

図表: 将来人口推計比較 資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」。福山市「福山市人口ビジョン」(2015年)

【人口将来展望(独自推計・年齢三区分)】

- 2040年に希望出生率1.90を達成することを見込む独自推計を年齢三区分でみると、生産年齢人口は、2060年時点で、国立社会保障・人口問題研究所推計を約1.2万人、年少人口は約1万人上回る。
- 総人口に対する構成比でみると、生産年齢人口比率は、同推計をやや下回る水準で推移するものの、年少人口比率は14%台を維持し、同推計よりも高水準となることが予測される。また、高齢化率は、同推計を下回る水準で推移しており、ピークとなる2050年においても33%を下回る32.4%にとどまることが予測される。



図表: 福山市人口将来展望 独自推計(社人研推計+希望出生率(2040年:1.90)) 年齢三区分別人口の推移